

平成26年

新入社員 意識調査

平成26年6月



ホームページ・アドレス
<http://www.a-bank.jp/>

も く じ

はじめに	1
調査要領	1
調査結果の概要	2
Q 1. 会社を選ぶ際の重視項目	3
Q 2. 県内就職の理由	4
Q 3. 社会人としての不安	5
Q 4. 社会人として大切なもの	6
Q 5. 昇給・昇格の基準について	7
Q 6. 今の会社でいつまで働きたいか	8
Q 7. 将来結婚した場合の共働きについて.....	9
Q 8. 『会社・仕事』と『家庭・生活』のどちらを重視するか	10
Q 9. 『ゼネラリスト』と『スペシャリスト』のどちらを目指すか ...	11
Q10. 上司に求めるもの	12
Q11. 理想の上司を有名人にたとえると	13
Q12. 初月給の使いみちは	14
Q13. 仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術は	15
Q14. 普段、情報源として利用するツールは	16
Q15. 自分をPRする言葉は	17
社会人となり、改めて感じることは（自由回答）	18

はじめに

青森県の雇用環境はこのところ改善傾向がうかがわれます。今年も多くの新入社員が期待と不安を胸に、社会人としての第一歩を踏み出しました。

企業にとって新入社員は将来を担う大切な財産です。厳しい就職戦線をくぐり抜け、晴れて企業の一員となった新入社員はどのような意識を持って日常の仕事に取り組んでいるのでしょうか。

本調査は、昭和 52 年から、このような新入社員の意識、考え方を調査し、その結果をまとめて公表しているものです。新入社員の意識、考え方をすることで、これからの社内教育、研修等の参考にさせていただければ幸いです。

最後になりますが、本調査に際しましてご協力いただきました新入社員の方々に厚くお礼申し上げます。

調査要領

- 方 法 アンケート方式
- 対 象 者 県内民間企業 平成 26 年度新入社員 189 名
- 実施時期 平成 26 年 4 月
- 回答者内訳

	男性		女性		合計	
	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
高 校 卒	58	30.7	41	21.7	99	52.4
専 門 学 校 卒	16	8.5	12	6.3	28	14.8
短 大 卒	2	1.1	7	3.7	9	4.8
大 学 卒	35	18.5	15	7.9	50	26.5
大 学 院 卒	3	1.6	0	0.0	3	1.6
合 計	114	60.3	75	39.7	189	100.0

※本調査は、青森銀行のホームページ(<http://www.a-bank.jp/>)にて公開しております。

.....
【本件に関する照会先】
.....

一般財団法人 青森地域社会研究所

担 当：野 里

TEL 017-777-1511
.....

調査結果の概要

1. 就職にあたって

- 会社選びのポイントは「仕事が自分に合っている」がトップ、以下「通勤に便利である」、「社会的貢献度が高い」などの順となった。
- 県内就職の理由は「地元のほうが生活が楽だから」がトップ、以下「地元のために自分の力を発揮したい」、「青森県が好きだから」などと続いた。

2. 社会人として

- 就職して不安に感じることは、「仕事についていけるか」がトップ、「職場の人間関係」が2位となり、この上位2項目で8割以上を占めた。
- 社会人として大切なものは、「責任感」がトップ、次いで「コミュニケーション能力」、「協調性」、「応用力・適応力」などの順となった。
- 昇給・昇格の基準は、「能力・業績が重視される型」と「能力主義と年功序列の両方が取り入れられた型」が同率でトップとなった。
- 今の会社では「とりあえず今の会社で働く」がトップとなり、「定年まで働きたい」の割合は減少した。
- 将来結婚した場合の共働きについては「共働きへの抵抗はない」とする割合が約9割を占めた。
- 「会社・仕事」よりも「家庭・生活」を重視したいとする割合は8割以上を占めた。
- 幅広い業務をこなす「ゼネラリスト」志向の割合が「スペシャリスト」志向を上回った。

3. 上司について

- 男性上司には「指導力」、「信頼感」、女性上司には「信頼感」、「優しさ」、「明るさ」などを求めている。
- 理想の上司を有名人にたとえると、男性上司では「タモリ」、女性上司では「天海祐希」がトップに選ばれた。

4. 初月給の使いみちは

- 初月給の使いみちは、「預金をする」がトップ、次いで「家族へのプレゼント」、「自分の欲しいものを買う」などの順となった。

5. 自分自身のことについて

- 仕事をするにあたって、身につけたい知識・技術は「情報処理に関する知識・技能」がトップ、次いで「営業力」、「語学力」などの順となった。
- 普段、情報源として利用するツールは「スマートフォン・携帯電話」が9割近くを占めた。
- 自分をPRする言葉は、「明るい」、「まじめ」、「忍耐力」などの順となった。

Q1. 会社を選ぶ際の重視項目

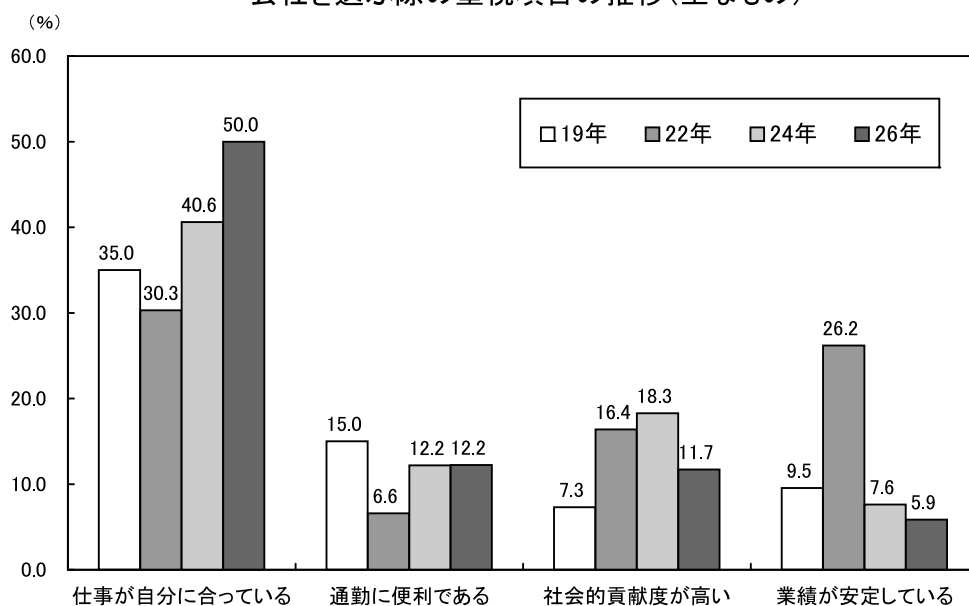
～「仕事が自分に合っている」がトップ、調査開始以来最も高い割合～

今年の新入社員が、就職する会社を選ぶにあたって重視した項目を尋ねたところ、「仕事に自分に合っている」が **50.0%** でトップとなり、次いで「通勤に便利である」が **12.2%**、「社会的貢献度が高い」が **11.7%**、「業績が安定している」が **5.9%** などと続いた。「自分に合っている」の割合は最近の調査で増加傾向がみられるが、今回は昭和 **52** 年の調査開始以来、最も高い割合となり、仕事との適正を重視する傾向が強まっている様子がうかがわれた。また、「社会的貢献度」は前回調査に比べ落ち込みがみられた。

男女別にみると、女性は「自分に合っている」(**58.1%**)、「通勤に便利」(**16.2%**)の割合が男性に比べ高かった。一方、男性は「社会的貢献度」(**14.0%**)、「業績が安定」(**7.9%**)が女性に比べ高かった。

学卒別にみると、それぞれトップは「自分に合っている」となった。その中で専門学校・短大卒(**62.2%**)は最も高い割合を示した。高校卒、専門学校・短大卒の **2~3** 位は全体と同じ順位となったが、大学・大学院卒では「社会的貢献度」(**17.0%**)が他に比べて高く、「通勤に便利」(**3.8%**)が低い割合となるなど、学卒別に幾分ばらつきがみられた。

会社を選ぶ際の重視項目の推移(主なもの)



会社を選ぶ際の重視項目

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
仕事に自分に合っている	① 44.7	① 58.1	① 45.9	① 62.2	① 49.1	① 50.0
通勤に便利である	③ 9.6	② 16.2	② 16.3	② 13.5	③ 3.8	② 12.2
社会的貢献度が高い	② 14.0	③ 8.1	③ 11.2	③ 5.4	② 17.0	③ 11.7
業績が安定している	7.9	2.7	6.1	2.7	③ 7.5	5.9
有名で会社の規模も大きい	3.5	5.4	7.1	0.0	1.9	4.3
給料が高い	5.3	1.4	4.1	2.7	3.8	3.7
福利厚生面の充実度	3.5	4.1	3.1	2.7	5.7	3.7
会社に将来性がある	2.6	2.7	2.0	2.7	3.8	2.7
その他	8.8	1.4	4.1	8.1	7.5	5.9

Q2. 県内就職の理由

～生活重視志向のほか、地元への貢献・チャレンジ志向が強まる～

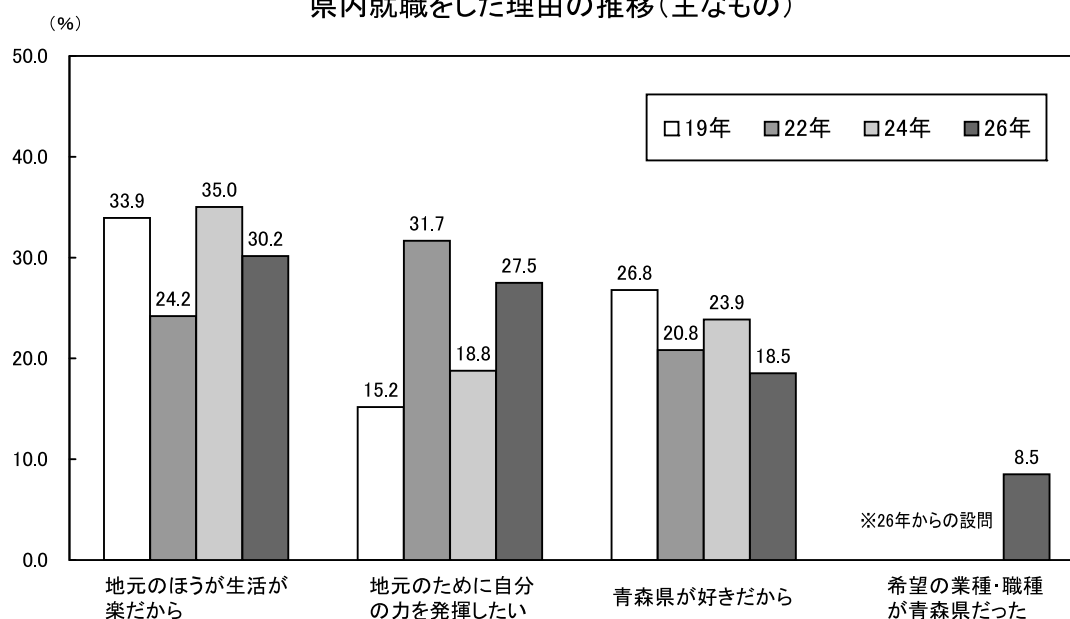
県内就職をした理由は、「地元のほうが生活が楽だから」が 30.2%でトップ、次いで「地元のために自分の力を発揮したい」が 27.5%、「青森県が好きだから」が 18.5%、「希望の業種・職種が青森県だった」が 8.5%などと続いた。前回調査と比べると、「生活が楽だから」の割合が減少する一方で、「自分の力を発揮したい」は大幅に増加した。

男女別にみると、男女とも「生活が楽だから」がトップとなり、ほぼ同じ割合を示した。また、女性は「自分の力を発揮したい」(30.7%)も同率でトップとなった。

学卒別にみると、高校卒は「地元の生活が楽」(34.3%)の割合が他に比べ高かった。専門学校・短大卒は「地元の生活が楽」と「自分の力を発揮したい」が同率(29.7%)でトップとなった。大学・大学院卒は「自分の力を発揮したい」(24.5%)がトップとなった。また、「地元の生活が楽」(22.6%)の割合が他に比べ低く、「希望の業種・職種が青森県」(15.1%)は比較的高かった。

今回調査では、全体に生活重視志向が根強いほか、地元への貢献・チャレンジ志向が強まっている状況がうかがわれた。

県内就職をした理由の推移(主なもの)



県内就職の理由

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
地元のほうが生活が楽だから	① 29.8	① 30.7	① 34.3	① 29.7	② 22.6	① 30.2
地元のために自分の力を発揮したい	② 25.4	① 30.7	② 28.3	① 29.7	① 24.5	② 27.5
青森県が好きだから	③ 17.5	② 20.0	③ 20.2	② 13.5	③ 18.9	③ 18.5
希望の業種・職種が青森県だった	7.9	③ 9.3	4.0	③ 10.8	15.1	8.5
家の事情でやむをえず	7.0	5.3	5.1	8.1	7.5	6.3
ただ何となく	7.9	1.3	5.1	5.4	5.7	5.3
その他	4.4	2.7	3.0	2.7	5.7	3.7

Q3. 社会人としての不安

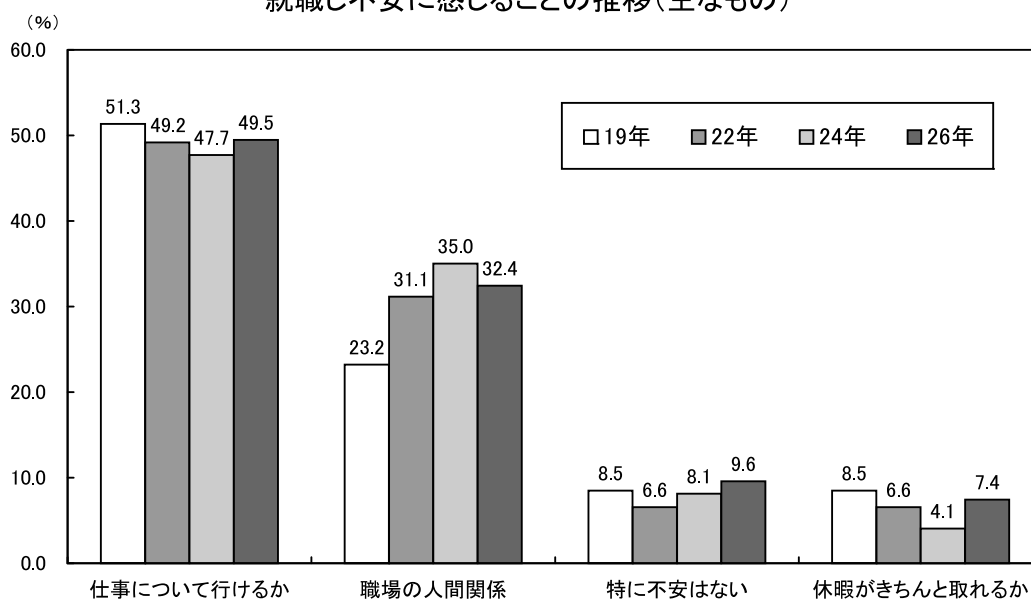
～仕事の内容、対人関係、コミュニケーションへの不安が大半を占める～

社会人としてスタートを切った新入社員が抱えている不安は、「仕事について行けるかどうか」が49.5%でトップとなった。次いで「職場の人間関係」が32.4%と上位2項目で全体の8割以上を占め、「特に不安はない」が9.6%などと続いた。順位は全項目とも前回調査と同様であり、仕事の内容への不安とともに、対人関係、コミュニケーションに対する不安が大半を占めた。

男女別にみると、順位は男女とも全体と同じであったが、女性は「仕事について行けるか」(56.8%)が過半数となったほか、「職場の人間関係」(37.8%)の割合も男性に比べ高かった。一方、男性は女性に比べ「休暇がきちんと取れるか」(11.4%)が高かったほか、「特に不安はない」(13.2%)も高く、仕事への自信、意気込みもみられた。

学卒別にみると、それぞれトップは「仕事について行けるか」であった。高校卒は全体とほぼ同様の結果となった。専門学校・短大卒は「職場の人間関係」(37.8%)の割合が他に比べて高く、「休暇取得」(8.1%)が3位となった。大学・大学院卒は「職場の人間関係」が比較的低く、「休暇取得」(13.5%)が高かった。

就職し不安に感じることの推移(主なもの)



就職し不安に感じること

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
仕事について行けるか	① 44.7	① 56.8	① 51.5	① 48.6	① 46.2	① 49.5
職場の人間関係	② 28.9	② 37.8	② 33.3	② 37.8	② 26.9	② 32.4
特に不安はない	③ 13.2	③ 4.1	③ 11.1	5.4	9.6	③ 9.6
休暇がきちんと取れるか	11.4	1.4	4.0	③ 8.1	③ 13.5	7.4
希望の仕事が任されるか	0.9	0.0	0.0	0.0	1.9	0.5
その他	0.9	0.0	0.0	0.0	1.9	0.5

Q4. 社会人として大切なもの (2項目まで選択)

～「責任感」、「コミュニケーション能力」が4割超～

社会人として大切だと思うことは、「責任感」が47.1%でトップとなった。次いで「コミュニケーション能力」が41.3%、「協調性」、「応用力・適応力」が24.3%などと続いた。「責任感」は調査項目開始の昭和56年以降、毎回トップに挙げられている。また、今回から加えた「コミュニケーション能力」は4割を超え高い割合となった。

男女別でみると、女性は「責任感」(50.7%)が男性に比べ高く、「応用力・適応力」(32.0%)、「自己啓発・向上意欲」(22.7%)も比較的高かった。一方、男性は「協調性」(28.1%)、「健康」(13.2%)が女性に比べ高かった。

学卒別にみると、高校卒、大学・大学院卒ではトップが「責任感」となったが、専門学校・短大卒では「コミュニケーション能力」、「協調性」が同率でトップとなった。その他の項目では、「応用力・適応力」では高校卒(27.3%)、専門学校・短大卒(24.3%)、「自己啓発・向上意欲」では専門学校・短大卒(24.3%)、大学・大学院卒(22.6%)、「辛抱強さ」では高校卒(17.2%)、大学・大学院卒(18.9%)の割合の高さが目立っており学卒別にばらつきがみられた。

社会人として大切なもの

(単位:%)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
責任感	① 44.7	① 50.7	① 54.5	② 35.1	① 41.5	① 47.1
コミュニケーション能力	② 41.2	② 41.3	② 47.5	① 40.5	② 30.2	② 41.3
協調性	③ 28.1	18.7	18.2	① 40.5	③ 24.5	③ 24.3
応用力・適応力	19.3	③ 32.0	③ 27.3	③ 24.3	18.9	24.3
自己啓発・向上意欲	11.4	22.7	9.1	③ 24.3	③ 22.6	15.9
辛抱強さ	14.9	16.0	17.2	5.4	18.9	15.3
健康	13.2	5.3	9.1	13.5	9.4	10.1
自発性	7.0	5.3	2.0	8.1	13.2	6.3

19年		22年		24年		26年	
責任感	① 57.1	責任感	① 60.3	責任感	① 52.3	責任感	① 47.1
応用力	② 32.6	協調性	② 40.5	協調性	② 38.6	コミュニケーション能力	② 41.3
自己啓発	③ 26.8	応用力	③ 25.6	応用力	③ 28.9	協調性	③ 24.3
辛抱強さ	④ 23.2	辛抱強さ	④ 21.5	辛抱強さ	④ 23.4	応用力	④ 24.3
協調性	⑤ 19.6	自己啓発	⑤ 19.0	自己啓発	⑤ 21.8	自己啓発	⑤ 15.9
健康	⑥ 17.0	自発性	⑥ 9.9	健康	⑥ 11.2	辛抱強さ	⑥ 15.3
自発性	⑦ 5.8	健康	⑦ 9.1	自発性	⑦ 7.6	健康	⑦ 10.1
その他	⑧ 0.9	その他	⑧ 1.7	その他	⑧ 0.0	自発性	⑧ 6.3
						その他	⑨ 0.0

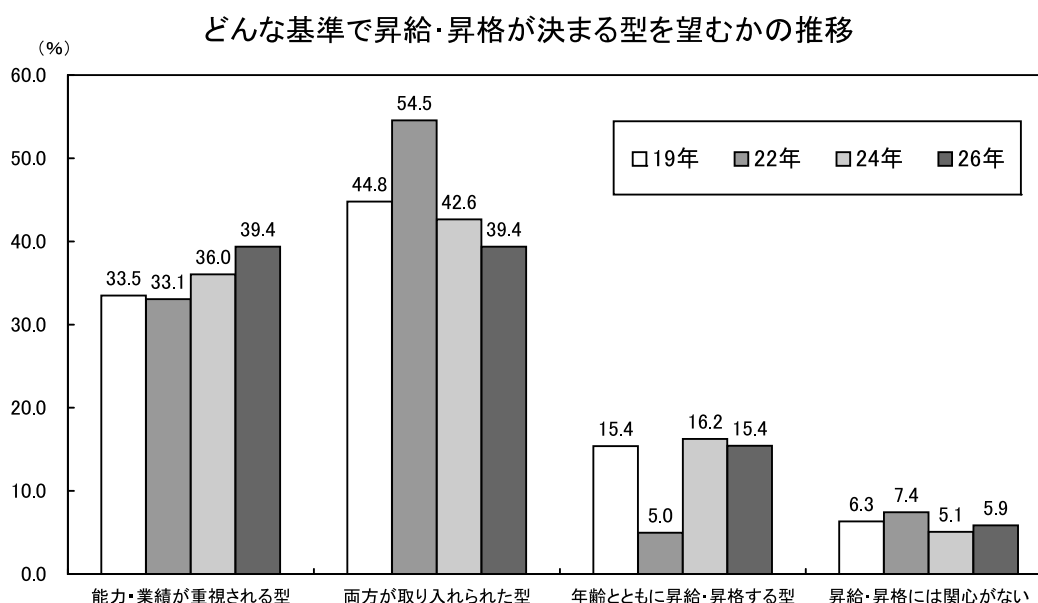
Q5. 昇給・昇格の基準について

～能力・業績重視への傾向が強まる～

新入社員が望んでいる昇給・昇格の基準は、「能力・業績が重視される型」と「能力主義と年功序列の両方が取り入れられた型」がそれぞれ 39.4%でトップ、次いで「年齢とともに昇給・昇格する型」が 15.4%、「昇給・昇格には関心がない」が 5.9%の順となった。前回調査に比べ「能力・業績が重視される型」が3.4ポイント増加し、「両方が取り入れられた型」は3.2ポイント減少した。この上位2項目についてはこれまで「両方が取り入れられた型」の割合が上回っていたが、前回調査に続き、今回も能力・業績を重視する傾向が強まっている。

男女別にみると、男性は「能力・業績が重視される型」(40.7%)の割合が高く、女性は「両方が取り入れられた型」(45.3%)が高かった。

学卒別にみると、「能力・業績が重視される型」は高校卒(41.4%)、大学・大学院卒(46.2%)でトップとなったが、専門学校・短大卒は「両方が取り入れられた型」(54.1%)の割合が過半数を占めた。また、高校卒は「年齢とともに昇給・昇格する型」(22.2%)の割合が他に比べ高い割合となった。



どんな基準で昇給・昇格が決まる型を望むか

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
能力・業績が重視される型	① 40.7	② 37.3	① 41.4	② 24.3	① 46.2	① 39.4
両方が取り入れられた型	② 35.4	① 45.3	② 31.3	① 54.1	② 44.2	① 39.4
年齢とともに昇給・昇格する型	17.7	12.0	22.2	8.1	7.7	② 15.4
昇給・昇格には関心がない	6.2	5.3	5.1	13.5	1.9	5.9

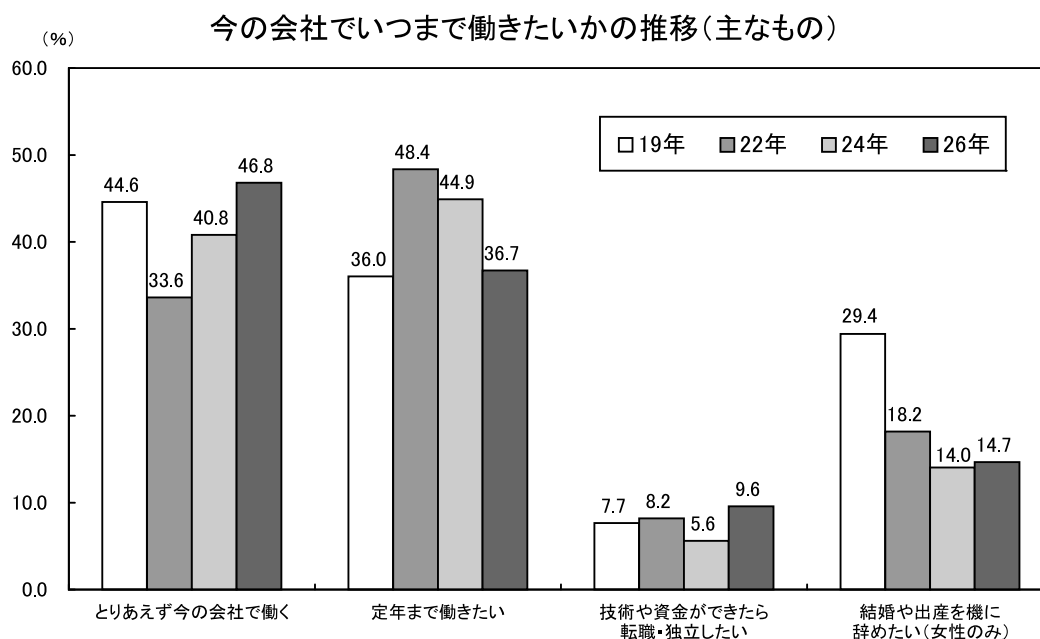
Q6. 今の会社でいつまで働きたいか

～「とりあえず今の会社で働く」がトップ～

今の会社への定着度については、「とりあえず今の会社で働く」が 46.8%でトップとなった。次いで「定年まで働きたい」が 36.7%、「技術や資金ができれば独立したい」が 9.6%などと続いた。「とりあえず今の会社で働く」が前回調査に比べ 6.0 ポイント増加した。雇用環境が厳しかった前々回の平成 22 年と比べると、「定年まで働きたい」は 11.7 ポイント減少した。これは最近の雇用情勢の改善が影響しているものとみられる。

男女別にみると、男性は「定年まで働きたい」(42.5%)が女性を 14.5 ポイント上回ったほか、「技術や資金ができれば転職・独立したい」(12.4%)も 7.1 ポイント上回った。一方、女性は「とりあえず今の会社で働く」(52.0%)が過半数を占めた。また、女性のみを対象とした「結婚や出産を機に辞めたい」(14.7%)とする割合は、前回調査とほぼ同水準となった。19年の調査と比較すると割合はほぼ半減となっており、女性の仕事に対する意識や環境の変化がうかがわれる。

学卒別にみると、全体とほぼ同様の傾向となったが、専門学校・短大卒は「技術や資金ができれば転職・独立したい」(18.9%)が比較的高い割合となった。



今の会社でいつまで働きたいか

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
とりあえず今の会社で働く	① 43.4	① 52.0	① 45.9	① 45.9	① 49.1	① 46.8
定年まで働きたい	② 42.5	② 28.0	② 38.8	② 27.0	② 39.6	② 36.7
技術や資金ができれば 転職・独立したい	③ 12.4	5.3	③ 7.1	③ 18.9	③ 7.5	③ 9.6
子供ができれば辞めたい	0.0	③ 10.7	6.1	2.7	1.9	4.3
結婚したら辞めたい	1.8	4.0	2.0	5.4	1.9	2.7
参考: 結婚や出産を機に辞めたい(女性のみ)		14.7	17.1	15.8	6.7	14.7

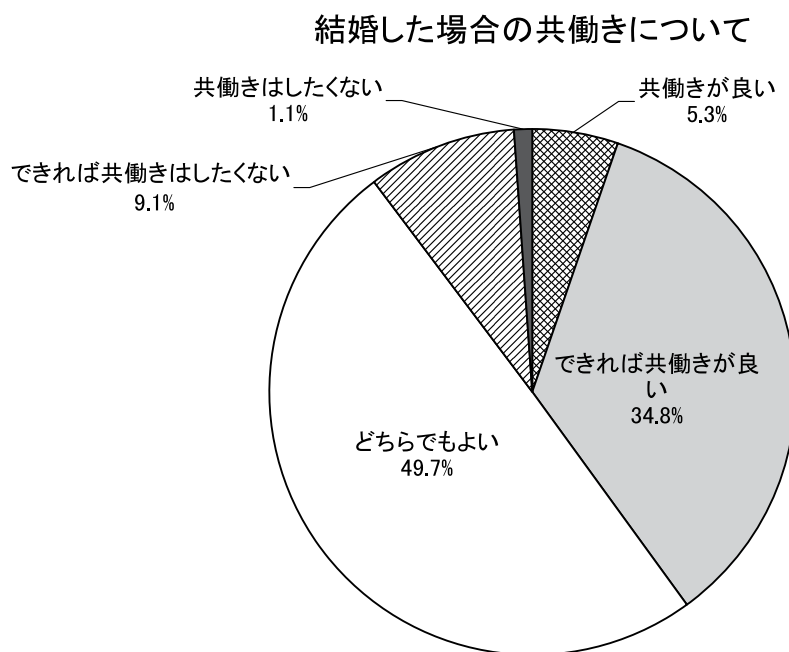
Q7. 将来結婚した場合の共働きについて

～共働きへの抵抗はないとする割合は約 9 割～

将来結婚した場合、共働きをすることについての考えを尋ねたところ、「絶対に共働きが良い」が 5.3%、「できれば共働きが良い」が 34.8%、「どちらでもよい」は 49.7%となり、程度の差はあるものの共働きへの抵抗はないとする割合の合計が約 9 割を占めた。収入面での不安や、新入社員が共働き世代の中で育ったことなどが要因と考えられる。一方、「できれば共働きはしたくない」は 9.1%、「絶対に共働きはしたくない」は 1.1%となり、共働きへの抵抗があるとする割合は約 1 割にとどまった。

男女別にみると、女性は「絶対に共働きが良い」(9.5%)、「できれば共働きが良い」(45.9%)の割合が男性に比べ高かった。一方、男性は「できれば共働きはしたくない」(14.2%)が女性を 12.8 ポイント上回った。

学卒別にみると、それぞれ大きな差はみられなかったが、大学・大学院卒は他に比べ共働きへの抵抗感が幾分高い様子が見られた。



結婚した場合の共働きについて

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
絶対に共働きが良い	2.7	9.5	8.1	2.8	1.9	5.3
できれば共働きが良い	② 27.4	① 45.9	② 32.3	② 36.1	② 38.5	② 34.8
どちらでもよい	① 54.0	② 43.2	① 51.5	① 52.8	① 44.2	① 49.7
できれば共働きはしたくない	14.2	1.4	8.1	8.3	11.5	9.1
絶対に共働きはしたくない	1.8	0.0	0.0	0.0	3.8	1.1

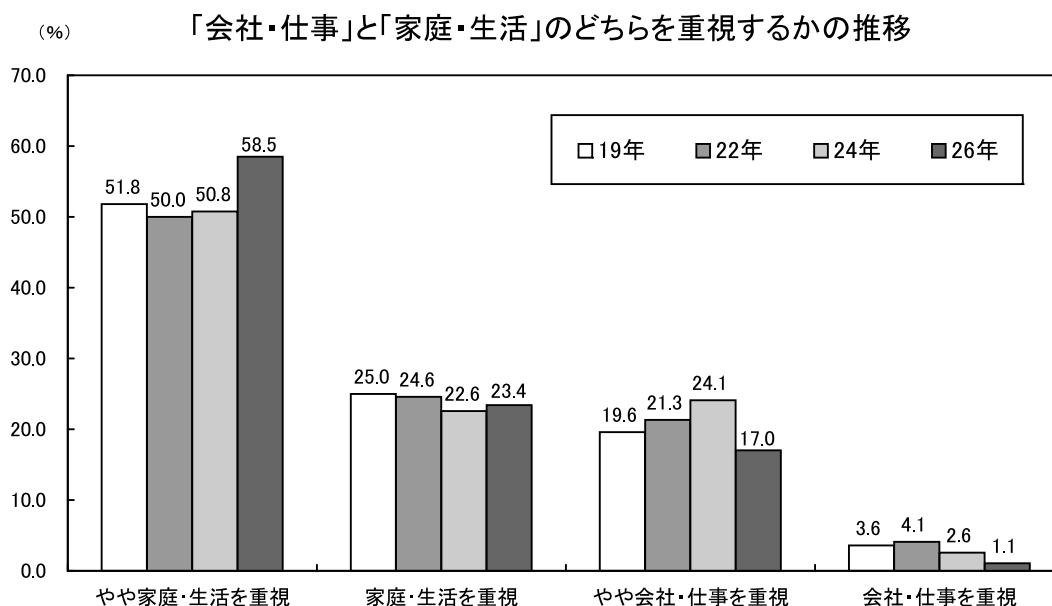
Q8. 「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか

～「家庭・生活」重視が 8 割以上を占める～

目指す社員像は、「会社・仕事重視型」か「家庭・生活重視型」かを尋ねたところ、「やや家庭・生活を重視」が 58.5%でトップ、次いで「家庭・生活を重視」が 23.4%、「やや会社・仕事を重視」が 17.0%、「会社・仕事を重視」が 1.1%の順となった。前回調査に比べ「家庭・生活重視型」の割合が増加し、全体の 8 割以上を占めた。一方、「会社・仕事重視型」の割合は 2 割を下回り、ライフスタイルが生活中心へ移行している状況がうかがわれた。

男女別にみると、「家庭・生活を重視」の割合は男性(28.1%)が女性を 11.9 ポイント上回った。一方、「やや会社・仕事を重視」は女性(23.0%)が男性を 9.8 ポイント上回った。

学卒別にみると、それぞれ「やや家庭・生活を重視」がトップとなった。一方、「やや会社・仕事を重視」は大学・大学院卒(24.5%)が 2 位となり、高校卒(11.1%)とは 13.4 ポイントの差がみられるなど、学卒別に幾分ばらつきがみられた。



「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
やや家庭・生活を重視	① 58.8	① 58.1	① 63.6	① 50.0	① 54.7	① 58.5
家庭・生活を重視	② 28.1	② 16.2	② 23.2	② 27.8	② 20.8	② 23.4
やや会社・仕事を重視	13.2	② 23.0	11.1	22.2	② 24.5	17.0
会社・仕事を重視	0.0	2.7	2.0	0.0	0.0	1.1

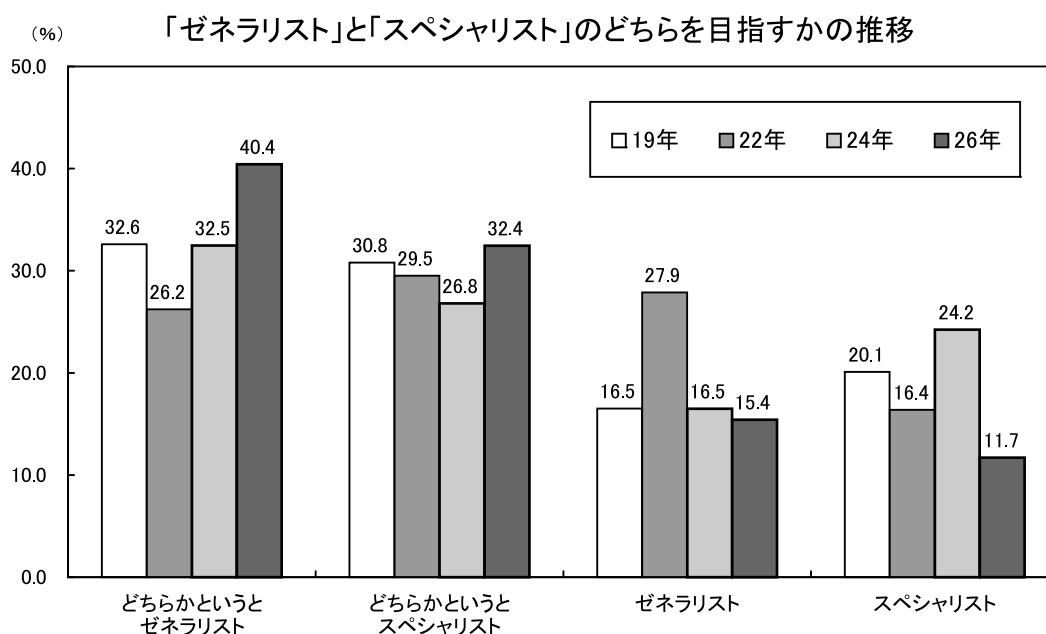
Q9. 「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを目指すか

～「ゼネラリスト」志向が「スペシャリスト」志向を上回る～

将来、職場で目指すのは、幅広い業務をこなす「ゼネラリスト」か、あるいは専門分野に秀でた「スペシャリスト」かを尋ねたところ、「どちらかというとゼネラリスト」が 40.4%でトップとなり、次いで「どちらかというとスペシャリスト」が 32.4%、「ゼネラリスト」が 15.4%、「スペシャリスト」が 11.7%の順となった。今回調査では中庸を目指す割合が増加し、「どちらかというのと～」の合計が 7 割を超えた。一方、「スペシャリスト」(11.7%)は前回調査に比べ 12.5 ポイント減少した。ゼネラリスト、スペシャリストの志向別にみると、前回調査ではほぼ同じ割合であったが今回はゼネラリスト志向が 55.9%、スペシャリスト志向が 44.1%となり、11.8 ポイントの差がみられた。

男女別にみると、女性は「どちらかというとゼネラリスト」と「どちらかというとスペシャリスト」が同率(36.5%)でトップとなった。一方、男性は「スペシャリスト」(15.8%)の割合が女性を 10.4 ポイント上回った。また、今回調査では男女ともゼネラリスト志向が 5 割を超えた。

学卒別にみると、それぞれ順位、割合にばらつきがみられた。高校卒はゼネラリスト志向(64.7%)が強かった。一方、大学・大学院卒はスペシャリスト志向(58.5%)が強く、専門学校・短大卒はゼネラリスト志向(52.8%)が幾分強かった。



「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを目指すか

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
どちらかというとゼネラリスト	① 43.0	① 36.5	① 47.5	① 41.7	② 26.4	① 40.4
どちらかというとスペシャリスト	② 29.8	① 36.5	② 24.2	① 41.7	① 41.5	② 32.4
ゼネラリスト	11.4	② 21.6	17.2	② 11.1	15.1	15.4
スペシャリスト	15.8	5.4	11.1	5.6	17.0	11.7

Q10. 上司に求めるもの

～男性上司には「指導力」、「信頼感」など力強さ、
女性上司には「信頼感」、「優しさ」、「明るさ」など精神的な拠りどころ～

職場で最も身近に接することの多い上司に対して、新入社員が求めているものを尋ねてみた。それによると、男性社員が男性上司に求めているものは「指導力」(37.7%)がトップとなり、「信頼感」(31.6%)、「優しさ」(9.6%)などの順となった。また、女性上司には「優しさ」(28.9%)がトップで、「明るさ」(21.1%)、「包容力」(19.3%)などの順となった。

一方、女性社員が男性上司に求めているものは「指導力」(28.8%)がトップとなり、「信頼感」(20.5%)、「決断力」(16.4%)などの順となった。また、女性上司には「信頼感」(41.1%)がトップで、「優しさ」(17.8%)、「包容力」(16.4%)などの順となった。

男女別にみると、男性上司に対して男性は「指導力」、「信頼感」といった仕事上で頼りがいのあるイメージのほか、今回調査では「優しさ」、「包容力」といったメンタルな面での支えを求める項目が目立った。一方、女性は「指導力」、「信頼感」、「決断力」、「行動力」といった力強さを求める項目が並んだ。女性上司に対しては、男女とも「信頼感」、「優しさ」、「明るさ」、「包容力」といった精神的な拠りどころを求めている項目が目立った。

男性新入社員が上司に求めるもの (単位: %)

男性上司には						女性上司には					
22年		24年		26年		22年		24年		26年	
指導力	48.2	指導力	33.8	指導力	37.7	優しさ	32.1	優しさ	31.6	優しさ	28.9
信頼感	26.8	信頼感	28.8	信頼感	31.6	信頼感	19.6	明るさ	21.5	明るさ	21.1
決断力	8.9	行動力	10.0	優しさ	9.6	包容力	16.1	信頼感	13.9	包容力	19.3
行動力	5.4	決断力	8.8	包容力	6.1	明るさ	10.7	指導力	11.4	信頼感	13.2
厳しさ	3.6	優しさ	6.3	決断力	4.4	知性	8.9	包容力	8.9	指導力	7.9
明るさ	3.6	明るさ	3.8	明るさ	4.4	指導力	7.1	知性	7.6	知性	3.5
優しさ	1.8	知性	3.8	厳しさ	2.6	行動力	5.4	行動力	2.5	行動力	2.6
その他	1.8	包容力	2.5	行動力	1.8	決断力	0.0	決断力	1.3	決断力	1.8
包容力	0.0	厳しさ	1.3	その他	1.8	厳しさ	0.0	厳しさ	1.3	その他	1.8
知性	0.0	その他	1.3	知性	0.0	その他	0.0	その他	0.0	厳しさ	0.0

女性新入社員が上司に求めるもの (単位: %)

男性上司には						女性上司には					
22年		24年		26年		22年		24年		26年	
指導力	34.8	信頼感	27.7	指導力	28.8	信頼感	31.8	優しさ	33.9	信頼感	41.1
信頼感	18.2	指導力	26.8	信頼感	20.5	優しさ	25.8	信頼感	30.4	優しさ	17.8
行動力	18.2	決断力	14.3	決断力	16.4	包容力	12.1	指導力	18.8	包容力	16.4
包容力	13.6	包容力	11.6	行動力	13.7	指導力	10.6	包容力	8.0	指導力	12.3
決断力	10.6	行動力	8.0	優しさ	12.3	決断力	6.1	明るさ	3.6	明るさ	8.2
優しさ	1.5	優しさ	8.0	包容力	4.1	行動力	4.5	知性	2.7	決断力	1.4
明るさ	1.5	厳しさ	1.8	明るさ	2.7	明るさ	4.5	決断力	1.8	厳しさ	1.4
知性	1.5	知性	1.8	厳しさ	1.4	知性	4.5	行動力	0.9	知性	1.4
厳しさ	0.0	明るさ	0.0	知性	0.0	厳しさ	0.0	厳しさ	0.0	行動力	0.0
その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0

Q11. 理想の上司を有名人にたとえると

～男性では「タモリ」、女性では「天海祐希」～

新入社員が考える理想の上司を有名人にたとえると、男性上司ではバラエティ番組などで活躍するマルチタレントの「タモリ」がトップとなった。司会を務めていた長寿番組が終了し、人脈の広さが更にクローズアップされたことなどが影響しているのであろう。次いで俳優の「小栗旬」、「堺雅人」が2位、「所ジョージ」、「水谷豊」が3位となった。4位以下には「イチロー」、「ビートたけし」などが選ばれ、さまざまなジャンルの顔ぶれが並んだ。今回は、これまで4回連続でトップを占めていた「所ジョージ」が3位となった。また、政治家では「安倍晋三」が5位にランクインした。

一方、女性上司では女優の「天海祐希」が3回連続でトップとなった。次いで歌手・タレントの「和田アキ子」、女優の「江角マキコ」が2位、「篠原涼子」、「北川景子」、「石原さとみ」が3位となった。4位以下は「真矢みき」、「仲間由紀恵」、「江角マキコ」らが選ばれた。ドラマや映画の中で見せる姿に共感する部分があるのであろう。また、今回調査では比較的若い年代の顔ぶれもみられた。

ランクインした顔ぶれをみると、ドラマで中間管理職を演じている俳優が多くみられたほか、スポーツ選手やバラエティ番組に登場するタレントなども選ばれており、メディアの影響が大きいことをうかがわせた。

理想の上司を有名人にたとえると

	男性上司には			女性上司には		
	22年	24年	26年	22年	24年	26年
1	所 ジョージ	所ジョージ 阿部 寛	タモリ	天海 祐希 真矢 みき	天海 祐希	天海 祐希
2	阿部 寛 佐藤 浩市 唐沢 寿明 野村 克也	向井 理	小栗 旬 堺 雅人	黒木 瞳	真矢 みき	和田 アキ子 江角 マキコ
3	ビート たけし 原 辰徳	桜井 翔 関根 勤	所 ジョージ 水谷 豊	篠原 涼子	篠原 涼子	篠原 涼子 北川 景子 石原 さとみ
4	館 ひろし	福山 雅治 イチロー	イチロー ビート たけし 竹野内 豊 福山 雅治	和田 アキ子 松嶋 菜々子	仲間 由紀恵 江角 マキコ	真矢 みき
5	イチロー タモリ 関根 勤 玉山 鉄二 佐藤 隆太 桜井 翔 島田 紳助 藤木 直人 明石家 さんま 柳葉 敏郎	明石家さんま 北野 武 渡辺 謙 池上 彰 速水もこみち 西田 敏行 水谷 豊	安倍 晋三 有吉 弘行 坂上 忍 櫻井 翔 高田 純次 本田 圭佑 榎 太一 柳葉 敏郎	米倉 涼子 仲間 由紀恵 上戸 彩 山口 智子 江角 マキコ 宮崎 あおい 久本 雅美	香里奈	仲間 由紀恵 佐々木 希 新垣 結衣

Q12. 初月給の使いみちは（複数回答：いくつでも）

～堅実な計画性、家族への気配り・感謝も～

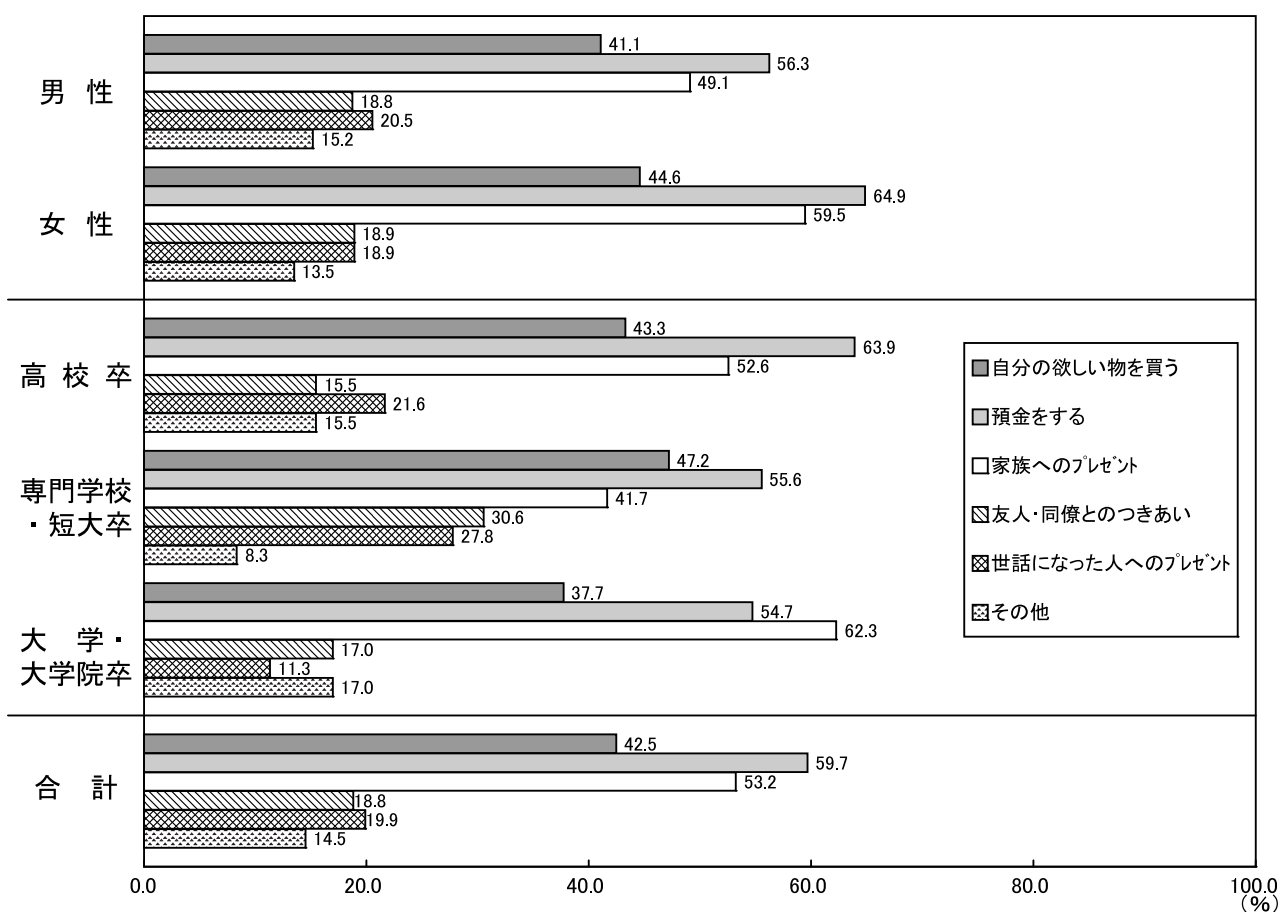
初月給をもらったら何に使うかを尋ねたところ、「預金をする」が59.7%でトップとなった。次いで「家族へのプレゼント」が53.2%、「自分の欲しいものを買う」が42.5%、「世話になった人へのプレゼント」が19.9%、「友人・同僚とのつきあい」が18.8%の順となった。

男女別にみると、順位は全体とほぼ変わりはないが、女性は上位3項目の割合が男性に比べ高かった。

学卒別にみると、それぞれ上位3項目に回答が集中しているが、構成割合については幾分バラツキがみられた。高校卒は「預金をする」(63.9%)、専門学校・短大卒は「自分の欲しいものを買う」(47.2%)、大学卒では「家族へのプレゼント」(62.3%)が、それぞれ比較的高い割合となった。

初月給の使いみちに関しては、社会人としてこれからの生活設計への堅実な計画性ととも、これまで世話になった家族や周囲の人たちへの気配り・感謝の気持ちもがうかがわれた。

初月給の使いみち



Q13. 仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術は

～「情報処理に関する知識・技能」がトップ～

新入社員が仕事をするにあたり、身につけたいと考えている知識・技術(3項目まで選択)は「情報処理に関する知識・技能」が**54.5%**でトップ、次いで「営業力」が**47.6%**、「語学力」が**42.3%**、「高度な工学系知識・技術」が**30.7%**などと続いた。今回調査では「特に身に付けたいものはない」は**3.7%**にとどまり、ほとんどの回答者全員が何らかの知識・技術を習得したいという意欲を示している。

男女別にみると、男性は「情報処理」と「営業力」が同率(**53.5%**)でトップとなり、「高度な工学系知識・技術」(**43.9%**)が**2位**となった。一方、女性は「語学力」(**53.3%**)が**2位**、「営業力」(**38.7%**)は**3位**となった。

学卒別にみると、高校卒は「営業力」(**52.5%**)、専門学校・短大卒は「情報処理」(**73.0%**)、「語学力」(**59.5%**)の割合が高かった。大学・大学院卒は「営業力」(**64.2%**)が高かったが、「工学系知識・技術」は他に比べて低かった。

仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術(3項目まで選択) (単位:%)

	男性		女性		高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計				
情報処理に関する知識・技能	①	53.5	①	56.0	②	46.5	①	73.0	②	56.6	①	54.5
営業力	①	53.5	③	38.7	①	52.5		10.8	①	64.2	②	47.6
語学力	③	35.1	②	53.3	③	41.4	②	59.5		32.1	③	42.3
高度な工学系知識・技術	②	43.9		10.7		34.3	③	37.8		18.9		30.7
経理・財務に関する知識		25.4		36.0		34.3		29.7		20.8		29.6
専門的資格		21.1		28.0		25.3		13.5	③	28.3		23.8
法律に関する知識		13.2		13.3		10.1		13.5		18.9		13.2
特に身に付けたいものはない		0.9		8.0		6.1		2.7		0.0		3.7
その他		4.4		5.3		1.0		10.8		7.5		4.8

次に、その知識・技術を身につけるためにやっていること(2項目まで選択)について尋ねたところ、「特に何もしていない」が**38.9%**でトップとなった。次いで、「独学で専門書など購読」が**38.3%**、「セミナーなどへの参加」が**22.1%**などと続いた。

男女別でみると、男性は「独学で専門書」(**41.5%**)の割合が比較的高かった。一方、女性は「通信講座」(**12.7%**)の割合が男性を上回った。

学卒別でみると、高校卒は「特に何もしていない」(**50.0%**)の割合が他に比べて高かった。専門学校・短大卒、大学・大学院卒は約**7割**が何らかの形で自己啓発に努めており、専門学校・短大卒は「独学で専門書」(**51.7%**)、大学卒は「セミナー」(**27.1%**)、「通信講座」(**10.4%**)が比較的高かった。

その知識・技術を身につけるためにやっていることは(2項目まで選択) (単位:%)

	男性		女性		高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計				
特に何もしていない	②	38.3	①	40.0	①	50.0	②	27.6	②	29.2	①	38.9
独学で専門書など購読	①	41.5	②	32.7	②	27.8	①	51.7	①	45.8	②	38.3
セミナーなどへの参加	③	22.3	③	21.8	③	22.2	③	13.8	③	27.1	③	22.1
通信講座の受講		5.3		12.7		6.9		6.9		10.4		8.1
専門学校への進学		2.1		1.8		1.4		6.9		0.0		2.0
その他		7.4		1.8		5.6		6.9		4.2		5.4

Q14. 普段、情報源として利用するツールは

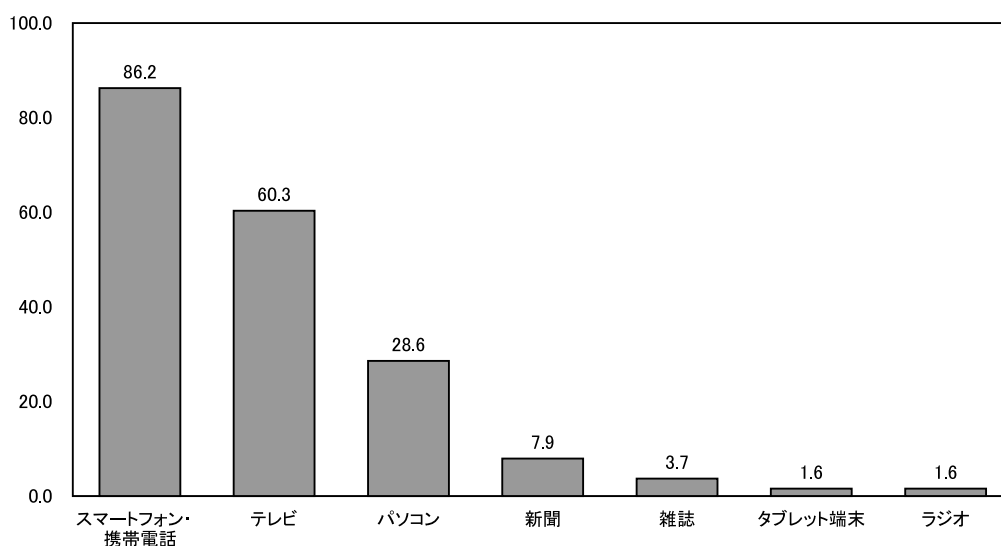
～「スマートフォン・携帯電話」が9割近くを占める～

現代の情報社会の中で、新入社員がどのようにしてさまざまな情報を入手しているのであろうか。ここでは普段、情報源として利用しているツール(端末、テレビ、新聞等、2項目まで選択)について尋ねてみた。トップは「スマートフォン・携帯電話」が86.2%となった。次いで「テレビ」が60.3%、「パソコン」が28.6%、「新聞」が7.9%などと続いた。「スマートフォン・携帯電話」は「全体の9割近くを占めており、機能の多様化、情報の速報性などから情報源としての主流ツールとなっている。一方、新聞、雑誌は1割以下にとどまっており、若者の活字離れといわれる状況がうかがわれる。

男女別にみると、大きな差はみられなかったが、男性は「パソコン」(31.6%)、「新聞」(9.6%)の割合が高かった。一方、女性は「テレビ」(65.3%)、の割合が高かった。

学卒別にみると、それぞれ順位は全体とほぼ同じであったが、最終学歴が進むにつれて「スマートフォン・携帯電話」、「テレビ」の割合が低くなり、「パソコン」、「新聞」は高くなる傾向がみられる。大学・大学院卒は「新聞」(17.0%)が他に比べ高く、より深い情報を求めている様子が見られる。

普段、情報源として利用するツール(2項目まで選択)



普段、情報源として利用するツール(2項目まで選択)

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
スマートフォン・携帯電話	① 84.2	① 89.3	① 87.9	① 86.5	① 83.0	① 86.2
テレビ	② 57.0	② 65.3	② 65.7	② 59.5	② 50.9	② 60.3
パソコン	③ 31.6	③ 24.0	③ 22.2	③ 29.7	③ 39.6	③ 28.6
新聞	9.6	5.3	5.1	2.7	17.0	7.9
雑誌	2.6	5.3	5.1	5.4	0.0	3.7
タブレット端末	2.6	0.0	1.0	0.0	3.8	1.6
ラジオ	0.9	2.7	2.0	2.7	0.0	1.6

Q15. 自分をPRする言葉は

～「明るい」、「まじめ」、「忍耐力」など～

新入社員が自分をPRする言葉は「明るい」が25.0%でトップ、次いで「まじめ」が19.7%、「忍耐力」が13.3%、「楽観的」が11.7%などの順となった。今回調査では「明るく、まじめな人物である」との自己PRが多く、「忍耐力」をアピールする割合も多かった。一方、「協調性」は4.8%にとどまった。

男女別でみると、上位3位までの順位は男女とも同じであった。女性は「明るい」(29.7%)、「まじめ」(25.7%)、「努力家」(10.8%)の割合が男性に比べ高かった。一方、男性は「忍耐力」(14.9%)、「楽観的」(13.2%)が女性に比べ高かった。また、前回調査同様「協調性」は男性(4.4%)、女性(5.4%)とも低い割合にとどまり、22年の調査と比較するとそれぞれ10ポイント前後低下している。

学卒別でみると、順位、割合に幾分バラツキがみられた。高校卒は「楽観的」(15.2%)、「体力」(9.1%)の割合が高かった。専門学校・短大卒は「まじめ」(30.6%)、「忍耐力」(19.4%)の割合が高かった。大学・大学院卒は「忍耐力」(5.7%)の割合が低く、「誠実」(11.3%)は他に比べ高い割合となった。

自分をPRする言葉

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
明るい	① 21.9	① 29.7	① 21.2	① 30.6	① 28.3	① 25.0
まじめ	② 15.8	② 25.7	② 18.2	② 19.4	② 22.6	② 19.7
忍耐力	③ 14.9	③ 10.8	③ 15.2	② 19.4	5.7	③ 13.3
楽観的	13.2	9.5	③ 15.2	③ 8.3	7.5	11.7
努力家	6.1	③ 10.8	7.1	③ 8.3	9.4	8.0
適応力	8.8	2.7	6.1	5.6	7.5	6.4
誠実	6.1	5.4	4.0	2.8	③ 11.3	5.9
体力	8.8	0.0	9.1	2.8	0.0	5.3
協調性	4.4	5.4	4.0	2.8	7.5	4.8

22年男性		24年男性		26年男性		22年女性		24年女性		26年女性	
楽観的	16.1	まじめ	24.7	明るい	21.9	明るい	19.7	明るい	30.1	明るい	29.7
まじめ	16.1	楽観的	17.3	まじめ	15.8	楽観的	18.2	努力家	15.0	まじめ	25.7
明るい	14.3	明るい	14.8	忍耐力	14.9	協調性	18.2	楽観的	14.2	忍耐力	10.8
協調性	14.3	努力家	9.9	楽観的	13.2	まじめ	15.2	まじめ	13.3	努力家	10.8
適応力	8.9	誠実	9.9	適応力	8.8	努力家	12.1	忍耐力	8.8	楽観的	9.5
忍耐力	8.9	忍耐力	7.4	体力	8.8	適応力	7.6	誠実	6.2	誠実	5.4
努力家	7.1	適応力	6.2	誠実	6.1	体力	6.1	体力	5.3	協調性	5.4
体力	7.1	体力	4.9	努力家	6.1	忍耐力	3.0	協調性	5.3	適応力	2.7
誠実	7.1	協調性	4.9	協調性	4.4	誠実	0.0	適応力	1.8	体力	0.0

社会人となり、改めて感じることは

最後に、「社会人となり、改めて感じていること」を自由に記述していただいた。今回も社会人としての責任感に関する記述が多かったが、新入社員の本音が聞こえてきそうで大変興味深いものが多かった。学生と社会人との環境の大きな違いに戸惑いながらも決意を新たにしている様子が見えてきた。

- 今まで、問題や失敗等をして少し怒られる程度で済み、自分だけの責任であったが、社会人となって問題を起こすと全体責任になってしまうという事を感じている。 (高校卒、男性)
- 責任感や自発性など求められているものが、自分にはまだまだ足りていないと思います。日々勉強ですが、早く慣れて働けるようになりたいと思います。 (短大卒、女性)
- すごく責任を感じる。失敗はたくさんすると思うが、教訓にしてがんばっていきたい。 (大学卒、男性)
- 自分が起こしたミスは、自分だけに影響を与えるのではないということを感じています。 (大学卒、男性)
- 自分のためだけでなく、お客様や職場の方から信頼感をいただき、仕事を任せただけのためにも、専門的資格を持ちたいです。 (大学卒、女性)

人間関係、生活の変化に関する記述も多かった。これまでの対等な仲間づきあいから組織の上下関係、あるいは自由な生活から仕事中心の生活への変化に戸惑っている記述が多かった。

- 覚えることがたくさんあり、目上の人への態度など。今まで以上に気をつけなければいけないと思いました。 (高校卒、男性)
- 色々な世代の人達とのコミュニケーションを取り、仲良くなり、楽しく仕事をしていければいいと思っております。 (高校卒、女性)
- 上下関係や時間厳守が大変です。 (専門学校卒、男性)
- 学生のとくとは責任が違います。社会に出てからは一人の大人として相手にされるようになりました。 (専門学校卒、女性)
- 改めて、礼や挨拶、発声など、人間として基本的な所から学ばせていただき、初心に返る思いで毎日生活しております。人と人のつながりを意識して、人間関係を大事にしていきたいと考えています。 (大学卒、男性)
- 学生の時以上に時間を上手に使わなければいけないと感じました。慣れないうちは難しいですが、早く仕事に慣れて自分の時間を捻出していきたい。 (大学卒、男性)

ただ、一方では環境の変化に悩みながらも、新入社員らしい初々しきで立ち向かっていこうとする姿勢がうかがわれる記述も多かった。

- 独り立ちしなければという自覚とともに、親やお世話になった全ての人に感謝の気持ちがわいた。 (高校卒、男性)
- お客様や上司の求める行動、対応が必要なのだと働いてみて思いました。そういったことに応えられるように日々学んでいきたいと思えます。 (高校卒、男性)
- 小さなミスでも会社にとっては大きなミスになります。メモをしっかりとるようにするだけでなく復習ノートを作ろうと考えています。少しでも早く役に立ちたいと思えます。優しい先輩ばかりなので頼り、甘えないようにしたいです。 (高校卒、女性)
- 一人の社会人として、責任感を持つことと、困難な場面から逃げない人間になりたいです。 (専門学校卒、男性)
- 社会に貢献していきたい。自分の思いと社会が求めているものとのバランスを上手に取れる様になりたい (大学卒、男性)
- 年齢差のある上司やお客様と、どう接するか考えさせられます。学生レベルの常識を上司やお客様のレベルに合わせた常識に引き上げる努力が今はまず必要だと感じています。 (大学卒、女性)

そのほか、我々先輩社員に考えさせるような、悩みや助けを求めているような記述もあった。

- 職場の方々とコミュニケーションをうまくとり良い人間関係を築けているのか不安。 (高校卒、女性)
- 仕事内容より態度を見られているので大変です。 (短大卒、女性)
- 改めて礼儀をきちんと身に付けないとダメだなと思った。 (大学卒、男性)
- この生活をこれからも続けていられるか心配。 (大学卒、男性)
- 学生の時とは違い、これでいいかが通らなくなり、1つ1つの行動に慎重にならなければいけないと思えました。 (大学卒、女性)

以上

発行日 平成26年6月27日

発行 株式会社青森銀行
青森市橋本一丁目9番30号
電話 017 (777) 1111

作成 一般財団法人青森地域社会研究所
青森市新町二丁目2番7号
電話 017 (777) 1511

印刷 北方商事株式会社
青森市港町二丁目6番6号
電話 017 (744) 1555

